

産業振興対策特別委員会第三次提言書

平成 22 年 9 月

長野市議会産業振興対策特別委員会

1 特別委員会の設置及びその組織

- (1) 設置年月日 平成19年10月9日（平成19年10月長野市議会臨時会）
- (2) 名 称 長野市議会産業振興対策特別委員会
- (3) 付託事件 観光・農業振興及び企業・大学等の誘致・育成に関する調査研究
- (4) 委員構成（平成21年9月24日改選 委員10名）

委員長	内山国男	（政 信 会）
副委員長	小林治晴	（長野市議会新友会）
委員	小林紀美子	（長野市議会新友会）
委員	池田宏	（無 所 属）
委員	近藤満里	（公明党長野市議員団）
委員	高野正晴	（長野市議会新友会）
委員	小泉栄正	（長野市議会新友会）
委員	望月義寿	（政 信 会）
委員	池田清	（市民ネット）
委員	原田誠之	（日本共産党長野市会議員団）

2 産業振興対策特別委員会の経緯

少子高齢化の進展や団塊の世代の大量リタイアなどを主な要因として、労働力人口の減少が進み、社会構造が変化してきている。また、国が進めてきた三位一体の改革により、地方財政は変化を余儀なくされてきている。

このような状況の中で自治体が発展するためには、農業、林業、商業、工業、観光などの各分野が、効果的な連携の下に事業展開されることが不可欠となっている。

そこで、本市における観光・農業振興及び企業・大学等の誘致・育成について調査研究を行うために、平成19年10月9日に本委員会が設置されたものである。

平成19年10月からは、主に企業誘致推進施策について調査研究を行い、翌年8月に市長部局に対して同施策について提言を行った。

平成20年10月からは、主に農業振興施策について調査研究を行い、翌年9月に市長部局に対して同施策について提言を行った。

平成21年10月からは、善光寺観光を初め本市の観光振興施策について集中的に調査研究を重ね、本市が取り組むべき事項として、以下の項目を提言し、これら項目を各事業に取り入れ、早期に実施するよう提言するものである。

(参 考)

本市の観光を取り巻く現状は、平成の大合併により新たな観光資源を有することとなったが、近年の観光客入込数は、善光寺の御開帳の年を除きおよそ1,000万人前後で推移している。ちなみに御開帳のあった昨年は、およそ1,570万人が本市を訪れた。また、平成26年度末までに予定されている金沢への新幹線延伸により、北陸地域との移動時間が大幅に短縮され、観光面や生活面での更なる交流が期待される。

このような中、長野市観光振興計画である1200万人観光交流推進プランに基づき、選択と集中による地域ブランドの創出・強化や、近隣市町村との連携による広域観光の活性化、またゆかりのある都市とのプロモーションパートナー都市協定の締結の推進など、善光寺一点通過型の観光形態から、周遊・滞在型、体験・交流型の観光形態に転換する施策を推進している。

本年度は、松代イヤーキャンペーンを展開し、松代城築城450年を契機に、多くの歴史・文化遺産を有する松代地区を全国にアピールしている。

また、本年10月1日から3か月間、信州デスティネーションキャンペーンが展開される予定である。県内の市町村は、このキャンペーンを有効に活用することによって、いまだ知られていない信州の魅力を全国にPRし、観光客を誘致するとともに地域の活性化を図ろうとするものである。

3 観光振興施策に係る提言

(1) 善光寺観光について

ア 善光寺の魅力をもっと引き出すために

- ・参拝のみならず、善光寺お盆縁日や長野灯明まつりなどのイベントや周辺の空き家の利活用などについて、善光寺、市民及び行政の3者がより一層連携して取り組み、善光寺の魅力をもっと引き出すこと。
- ・観光客が善光寺周辺をゆっくり散策できるように、車道と歩道を分離するなどの環境整備を行うこと。また、都市計画街路の見直しを行うこと。
- ・観光客の興味を引き付けるために、善光寺周辺で特産物の販売や（仮称）そば三昧祭りなどのイベントを市民と協働で企画立案するなど支援を行うこと。
- ・善光寺周辺の街並みにもっと光を当て、重要伝統的建造物群保存地区選定に向けての条件整備を行うとともに、善光寺一帯を対象にした世界遺産登録の一層の推進を図ること。

イ 駐車場等の整備について

- ・観光客が、中央通りを表参道としてゆっくり歩けるよう、駐車場を善光寺南方向に整備又は増設すること。
- ・高速道路のインターチェンジから駐車場までの道路案内板をより分かりやすいものに整備すること。

(2) 食の充実について

ア 新たな食の開発について

- ・長野らしい特産物を生かした郷土食の開発に対して支援を行い、積極的に全国にPRしていくこと。また、B級グルメコンテストなど食をテーマにしたイベントにもっと光を当てていくこと。
- ・地元の食材を生かした魅力的な駅弁の開発に対して支援を行い、積極的に全国にPRしていくこと。

イ 長野駅前を初め長野市の顔となる場所に地域の食を一堂に提供できる場所を設置するよう、関係諸団体等に働き掛けを行うこと。

(3) 交通機関と観光振興について

ア 現存する鉄道路線を有効活用すること。

- ・ J R 信越線・篠ノ井線・飯山線、しなの鉄道及び長野電鉄の鉄道路線と沿線の観光素材相互の活性化を図ること。

沿線の観光素材の例：温泉、博物館、偉人、街並み散策、車窓など

- ・ 観光客への魅力の向上を図るために、駅や電車内で新鮮な有機野菜や果物を販売する「市」を市民と協働で企画立案するなど支援を行うこと。

イ 新幹線の金沢延伸を控えて

- ・ 新幹線の乗客が大幅に増えることが予想されるが、これら乗客を長野にとどめるために、長野駅と駅前の魅力向上及び駅と善光寺を結ぶ中央通りの活性化を図ること。
- ・ 金沢市とは、平成19年2月に集客プロモーションパートナー都市協定を締結しているが、市民の往来及び交流を更に促進するために、観光広報活動を一層活発に行うこと。

ウ 長野駅を起点とした観光の充実について

- ・ 観光客が長野駅での乗換えをスムーズに行えるよう、各種時刻表を分かりやすいものに改善することなどを関係者に働き掛けるとともに、観光案内板などの掲示を更に充実させること。
- ・ 長野駅周辺にある観光地行きのバス乗り場が分散化しているなど分かりづらいため、乗り場を1か所にまとめたり、案内板をより見やすいものとするよう関係者に働き掛けを行うこと。
- ・ 観光客とじかに接するタクシー、バス及び電車の運転手に接客マナーの向上及び観光情報の周知を図られるよう支援を行うこと。
- ・ ながの観光コンベンションビューローが、昨年、第三種旅行業を登録したので、積極的に魅力ある地域密着型ツアーを企画すること。

エ 観光振興と交通機関は密接に関連があるため、今後、観光振興施策又は交通政策を進めるに当たっては、観光課と交通政策課がより一層連携を取り合うこと。

また、観光の更なる振興に向け、総合的かつ集中的に施策を展開できる体制を整えるために、(仮称)観光部設置の必要性について調査検討を行うこと。

(4) イヤーキャンペーンと各地区の観光資源の掘り起こしについて

- ア イヤーキャンペーンへの全面的後押し及び対象地区の拡大を図ること。

特に、観光資源の少ない中山間地域に観光客や市民を呼び込むための方策を検討すること。

イ 各地区の観光資源の掘り起こしを図ること。

- ・住民自治協議会が主体となり、各地域の文化等で誇れるものや食文化をリストアップしてもらい、それらを積極的にPRすること。
- ・現在、市では長野市トレッキングコースとして6か所を指定しているが、これらのほかにも合併地区を初めとした地域に新たなコースを選定し、積極的にPRすること。さらに、コースをより有効的に活用するために、トレッキング以外の利用についても調査研究を行うこと。

4 調査研究の経過（委員改選後）

年 月 日	事 項	調査研究事項等の内容
平成21年 9 月24日	第 1 回委員会	正副委員長の互選
平成21年11月 2 日	第 2 回委員会 (理事者出席)	(1) 大学の誘致及び育成の取組 状況について (2) 企業誘致と雇用創出対策に ついて (3) 観光振興施策について (4) 農業振興施策について
平成21年11月16日 ～18日	行 政 視 察	盛岡市、八戸市、函館市
平成21年12月14日	第 3 回委員会 (理事者出席)	(1) 観光振興施策について (2) 行政視察のまとめについて
平成22年 1 月12日	第 4 回委員会 (理事者出席)	(財)ながの観光コンベンション ビューローの取組について
平成22年 1 月27日	第 5 回委員会	観光振興施策について
平成22年 3 月10日	第 6 回委員会 (理事者出席)	観光振興施策について
平成22年 4 月14日	第 7 回委員会 (理事者出席)	観光振興施策について
平成22年 4 月22日	管 内 視 察	善光寺事務局との意見交換会
平成22年 5 月28日	第 8 回委員会	観光振興施策について
平成22年 6 月18日	第 9 回委員会	観光振興施策について
平成22年 7 月23日	第 10 回委員会	観光振興施策について
平成22年 8 月18日	第 11 回委員会 (理事者出席)	観光振興施策について
平成22年 9 月10日	第 12 回委員会 (理事者出席)	観光振興施策について